

— 谷英志 写真画展 —  
ドローイング

# 彼方此方

あちらとこちら

セレネ美術館  
2Fギャラリー

観覧無料  
会期中無休

2022  
9/24<sup>[土]</sup>

↓  
10/30<sup>[日]</sup>

9:00\_17:00



『FOMOKAGE』(未完) H403×W553mm 2022年 鉛筆、アクリル



『此岸の先より』H559×W829mm 2021年 鉛筆



『ブックストア』H400×W910mm 2022年 鉛筆



『ミラーズ』H1168×W910mm 2021年 水性色鉛筆

セレネ美術館のギャラリー企画「谷英志展」。撮影した風景を鉛筆で緻密に書き写す「写真画」から生み出されるのは、時間が止まった写真の冷たい再現ではなく、鉛筆の線がゆらぎ、濃淡がやわらかく空間を包む、不思議とあたたかな世界です。真っ黒に塗られていても、そこには鉛のぶい光がうねり、なにかが潜んでいるように感じます。わたしたちは世界を白黒で捉えることはほとんどありません。そのため、鉛筆で描かれた世界には、紗幕がかかっているような非現実感が漂います。さらに、対象との絶妙な距離感が心をざわつかせ、もどかしい愛しさと、理由のない不安をかきたてます。あそこに行ってみたく、でもなんだか少し怖い…。今回、画家が名付けた展覧会名「彼方と此方」。これは対象と画家のことでしょうか、描かれた世界とわたしたちのことでしょうか。その境界はあいまいで、すぐ手が届くような気がするのに、そこには絶対に行けないこともまた分かっているのです。写真と鉛筆、わたしたちの身近にあり、けれど相反するこの二つから成り立つ、谷英志の世界をどうぞご覧ください。

1981年、富山県富山市生まれ。富山市八尾町在住。2004年に富山大学を卒業後、2006年までEcole Supérieure des Beaux-Arts de Cornouaille(キャンペール市/フランス)へ在学。同年、D.N.A.P(フランス国家造形資格)を取得。2014年から2年間、第3アリアンサ日本語学校(ミランドポリス市/ブラジル)へ勤務。2021年から黒部市芸術創造センターセレネ 写真画教室、講師。

## 谷 英志 ドローイング / 写真画 作家

- 2008年 第2回VAADビジュアルアート大賞 最優秀賞(郡山市/福島)
- 2009年 個展 LADSギャラリー(福島区/大阪) '11
- 2015年 個展 ベレイラパレット市移住歴史博物館(サンパウロ州/ブラジル)
- 2019年 第5回プリント&ドローイングバンコクトリエンナーレ 入選(バンコク/タイ)
- 2019年 第8回「ドローイングとは何か」入選(東京) '20第9回 入選
- 2020年 個展 遊文舎(柏崎市/新潟)
- 2021年 文学とアートの出逢いー装幀画展ー(金沢、東京)'22



<https://t-ciji.jp>



お問い合わせ

黒部市芸術創造センター セレネ

富山県黒部市宇奈月温泉6-3 tel.0765-62-2000

<https://www.unazuki-selene.com/>

